

丸山湿原群保全の会会報

(第 146 号)

発行日：2019 年 (R1) 9 月 17 日 編集／発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内
TEL/Fax0797-91-1788
090 - 1895 - 8061 (今住^{いますみ})

E-mail: maruyamashitugengun@gmail.com

台風 15 号 (9 月 9 日) 被害に遭われている方にお見舞い申し上げます。停電は今も続き、昨年の台風、北海道の地震による停電も含め、人がいかに電気に頼っているかを思い知らされます。

「二百十日」「二百二十日」とはよく言ったもので「八朔」を加えて「農家の三大厄日」というそうです。「八朔」はかんきつ類にもありますが「朔」が 1 日 (月初) を意味し 8 月 1 日のこと。いずれも荒天 (風) 予想の基準だったようです。富山の「おわら風の盆 (9 月 1 日～3 日)」も風鎮祭起源とか。今や時間単位で天気が知れる時代なのに、災害の規模が大きくなっているのはどういうことなのでしょう？ いや、昔から大災害はよく起こっていて、情報が入らず気付かなかっただけなのかも。うがったものの見方でしょうか？ (本来は旧暦の話でしょうか？)

お詫びと訂正を。前号 (145 号) で「まんのう公園」でガイドの皆さんを「**インタープリンター**」と紹介してしまいました。間違いです。「**インタープリター**」です。大変申し訳ありませんでした。ご指摘がありました。言い訳を。書く時には調べました。「インタープリンター」として。ネット検索で。すぐヒット。「通訳者云々…ガイド」納得！よく見ると「もしかしてインタープリター？」と訂正してくれていました。つまり「インタープリター」で調べていました。「インプリンティング (刷り込み)」という言葉があり、インプリンティングされていました。おあとがよろしいようで…**Blog もそっと書き換えました。あ～恥ずかし！内緒やで…**

(今住 9 月 16 日作成)

サギソウ開花数調査★8 月 18 日 (日) 第 1 湿原 42 名で調査 (宝塚エコ講座 22 名を含む)

今年度のサギソウ開花数調査は宝塚市主催の「宝塚エコ講座 第 3 回」と合同で実施しました。「宝塚エコ講座」は自然だけではなく、持続可能社会へ向けてエコ全般を学ぶ講座です。今回は生物多様性講座。



カウント方法の説明中

2 年前にも開花数調査を体験していただいています。(別日で 8 月末に実施) その年は開花最盛期にドンピシャ！正式なカウント日より多くのサギソウが見られました。

今年も、「エコ講座」に合わせるようにたくさんの開花が確認。宝塚市さん何かお持ちのようで！

参加された方からは「宝塚にこんなところが



とても真剣にカウント

2019 サギソウ開花数調査結果

丸山湿原エコミュージアム推進協議会
(実施団体 丸山湿原群保全の会)

調査結果 (丸山湿原群 第 1 湿原のみ実施)

調査日：2019 年 8 月 18 日 (日) (天候：晴れ)

7 班平均 少数切り捨て (42 名で計測)

区画番号	開花株数	備考	(参考) 昨年開花株 2018.8.18 調査	(参考) 2017.8.19 調査	(参考) 2016.8.20 調査	(参考) 2015.8.19 調査
1	0	最上流	0	0	0	0
2	5		4	6	0	1
3	20		4	8	3	1
4	49		31	17	9	20
5	88		83	60	4	79
6	143 (7)	(小湿地)	121 (2)	93 (2)	33 (0)	83 (0)
7	114		60	63	7	66
8	125		90	52	26	87
9	86	最下流	41	40	21	26
合計	630		434	339	103	363

総開花株数 630 株 (各区画の小数は切り捨てで集計)
少数切り捨て前は 633.5 株 (調査時発表数)

あったのか?」「自然のままでこれほど多くのサギソウが咲くことに驚きました。」など、大変ありがたなお言葉をいただきました。しかし実際は、花のじゅうたんや一面のお花畑とは言えません。花の小ささにも驚かれる方も多数。「生物多様性講座」にふさわしい多種多様な感想がありました。また、湿原や湿原に至るまでの動植物ガイドの希望もありましたが、人数が多いことと調査の時間が十分とれない関係で省略。次回からの課題とします。

暑い一日！スタッフ・参加者の皆さんありがとうございました。開花（株）数は前ページの別表で。増えてますがな！**少なくともサギソウ（鷺草）にとっては良い環境になっていると思われます。**

しかし、サギソウばかり意識していて他の生き物はどうなっているのか？注意を払う必要はあると思います。とかっこいいことを言いますが。現に**ヒメタイコウチ（姫太鼓打）**がなかなか見つからないのも事実（探してないけど）。居るのは間違いないのですが…「ヒメタイコウチ個体数調査！」は無理でしょう…手法はあるのかもしれません。ご存知の方、教えてください。やりませんが。絶対やりません。

定期活動 ★8月25日（日）

サギソウ開花数調査センサスライン撤去・平場作業（雑木整理）7名で活動

少し遅くなりましたがセンサスラインの撤去です。といっても私は村の用事で参加せず。また見



手作りのリール 感謝

たように書きます。今年は昨年の反省からラインが絡まらないように簡易的なリールを作成。ライン自体が安物のくくり紐ですがそこはエシカルに再々利用を考えます。すいません、また適当に



巻き取り活用中

書きました。昨年の巻き取り反省をした方がお一人。他の会員はな～んにも考えていませんでした。いや考えていた人も？「毛糸巻き方式」も聞いたような。しかし前日までに段ボールを加工し、自分は参加できないので活用をと、倉庫近くにそっと。ありがとうございます。活用させていただきます。これで来年は湿原内でこける人もいないと思います。

作業は手慣れたもの、さっさと片付け次の作業へ。しかし、終盤を迎えたサギソウを想い、自然に五七の調べが…

沼茅を 忘れないでと 背伸びする

鷺花と 別れを称え 黄昏れに 見上げた空は うろこの雲か

田光



咲き残りのサギソウ

日本の文化ですな～！又マガヤ（沼茅）はもう少し衰退して欲しいですが。又マガヤを忘れることは絶対ありません。この日は秋の気配が雲だけではなくほんとにあった。ポエムもいいかも。ぜひ投稿お願いします。



スズメバチ

アブラゼミを食するスズメバチ

ミズギボウシ（水擬宝珠）や**キンミズヒキ（金水引）**、今年はしょぼくれた**ツチアケビ（土木通）**。**ヒメアカネ（姫茜）**も多数。**スズメバチ**が**アブラゼミ**を食するシーンに衝撃を受け作業に入りました。働きバチは働いています。

いよいよ秋に…なるよね。



しょぼくれたツチアケビの実



ミズギボウシ

北摂里山大学安全講習 8月31日(土) 西谷の森公園で座学 丸山湿原周辺で実習

北摂里山博物館運営協議会が実施する北摂里山大学第8期生の講座です。昨年も同様の講習が



用具の準備

実施されました。昨年は私、ホストなのに半そでで参加。怒られたのを憶えています。安全確保のため今年は長袖を着用。「きほんのキ」です。ヘルメットは着用ごまかしました。怒ってはったんやろな…安全講習やのに。性根が腐っとる。

午前中、座学の間に作業場所を確認。昼食後丸山湿原へ。そこで一つ問題が。バスの背が高い！マイクロバスよりかなり大きく、しかも背が高い。木の枝垂れがあり駐車場まで行けるのかと心配に。事前に運転手さんに連絡。すると「行けるところまで行きます」と力強い返事が。すごい。「途中で方向転換できませんよ」というと、「バックで帰ります」と。ヒエー！プロ魂。心配しましたが、屋根に枝をゴンゴン打ち付けながら何とかたどり着いたようです。屋根にはコナラ（小櫓）の枝がぶら下がっていました。

駐車場で装具の受け渡し。準備運動の後、班分けと再度注意点のまとめ、そして出発。

今回は第2湿原へと向かう歩道の両脇の雑木を安全に整理。すべて手作業で径10cmぐらいの雑木伐採も行います。既に活動をしている方や、本当に初めての方いろいろですが、皆さん熱心に取り組んでおられました。「気持ちのいい汗がかけた」と充実感があったようです。保全作業ですが基本は山仕事。仕事の原点を感じます。



勇敢な三田観光バス



準備運動 昨年の画像と酷似



現場作業指導

またまた内緒ですが、後半ふとスタッフが近くのコナラを見上げると立派なキイロスズメバチ（黄色雀蜂）の巣が！高さ8メートルぐらいの位置に。雨風がしのげるのかと少し不思議でしたがこれからもっと大きくなるに違いありません。雨風で落ちる？

危険と隣合わせの状態。でも、ちょっと距離もあったのでスルー。うちの会員を刺した巣が移動したに違いないと妄想も膨らみました。しかし、連絡せず。安全講習という観点からはまた怒られる～！内緒やで。な・い・しょ！



キイロスズメバチの巣

丸山湿原セミナー2019「自然史講座」

★9月7日(土) 宝塚西谷の森公園で実施 49名の参加

昨年より北県民局・宝塚市・西谷の森公園との共催事業として実施しています。もちろん主催は「丸山湿原エコミュージアム推進協議会」。知名度が？

今年は、「虫こぶの話」と「シダ植物の不思議」。講師として伊丹昆虫館の野本康太さん・近畿植物同好会の山住一郎さんをお迎えしました。



持って来ていただいた虫こぶ

虫こぶは「虫えい・ゴール」ともいわれ、丸山のガイドでも「エゴノネコアシ」や「ヌルデミミフシ」などは定番として登場します。身近なようで何のこと？という不思議な存在です。フレッシュな



野本さん

虫こぶを持参していただき、なぜ虫こぶが出来るか等スライドを使ってわかりやすく解説していただきました。これまで会報にも何度か登場した虫こぶ。野本さんは「調べれば調べるほど奥が深い。」とも言っておられました。千年以上前から薬や染料としても利用されてきた虫こぶ。ぜひ探してください。



山住さん

後半と午後はシダ植物。わかるのは、ワラビ（蕨）ゼンマイ（薇）ウラボシ（裏白）ぐらいまででしょうか。あっ！つくし＝スギナ（土筆＝杉菜）も。でも大きくなるとみんな同じに見えます。ところが山住さんは、歩きながら「ほらベニシダ、これハリガネワラビ、あれはヤマイタチシダ。」などと、即座に認識できる超人（下見に同行）。座学ではシダの生殖の話になると語気が強くなりヒートUP！しかし、前葉体？植物の精子と卵？となると…。「高校生物」ぐらいで学習しているはずですが、やはり植物は「雄しべ」「雌しべ」になってしまいます。花が咲かないと考えると納得。原始的な植物なんですね。隠花植物ともいうそうです。

お話から学び、理解される方も多かったようで、シダ愛にあふれる講演となりました。山住さんは、「苔ガール」ならぬ「シダガール」が生まれることを強く望んでおられました。

フィールドワーク参加者も多く（35人位）、後列には話がうまく伝わらないことも。何か工夫が必要と反省しています。多数のご参加ありがとうございました。



シダガール？とフィールドワーク

定期活動 ★9月14日（土）定期活動 基礎調査

目的	市内	市外
丸山	70	61
ハイキング	24	22
その他	17	28

来場者数 計 222 人
（竹筒ポスト人数）

場所	時間	気温【水温】	電気伝導度（EC）	PH
入口	10：00	29.5℃		
第3湿原	10：35	【24.3℃】	78.1 μS/cm	6.5
視点場	10：50	29.7℃	36.8 μS/cm	5.7
第1湿原	11：08	【26.5℃】	42.3 μS/cm	6.4
第2湿原	11：46	【25.8℃】	38.3 μS/cm	6.6

セミナーも盛況に終わり一息つける活動です。湿原へ向かう道にはミツバアケビ（三つ葉木通）の青い実や、ツルニンジン（蔓人參＝ジイソブ）の蕾などが見受けられ秋近しという感じです。また、この時期はスズメバチ類も活発に活動する季節。オオスズメバチ（大雀蜂）が樹液を吸う姿には少し怖さも感じます。カエントケ（火炎茸）も出ています！気を付けてください。湿原はキセルアザミ（煙管薊）やミミカキグサ類がたくさん開花。



カエントケ猛毒

スイラン（水蘭）も咲き始めています。サワギキョウ（沢桔梗）やヒメシロネ（姫白根）も。さらに、林縁には果実の美味しいものが。ナツハゼ（夏櫨）、イソノキ（磯の木）の実も熟してきました。甘酸っぱいナツハゼ、甘みの強いイソノキ、好みは別れそうですが鳥が食べる前にありつけるかタイミングの勝負です。いつでも食べられるのは鳥さんだからね～。ナツハゼはあんなに生えているのに滅多にありつけない。鳥さん取り（鳥）こぼしをお願いします。



スイラン



サワギキョウ

アリマコスズ（有馬小鈴…笹）の新情報あり。次回ぐらいに報告します。

次回活動日 9月22日（日） 10月8日（火）小学校環境学習 12日（土）27日（日）